

大崎市立古川南中学校

I 学校所在地の災害特性及び地域連携に係る現状等

(1) 学校所在地の災害特性

① 自然的条件

大崎市立古川南中学校区(右図オレンジ部)は、JR古川駅の西側にあり、古川第三小学校と古川第五小学校の2つの小学校を含む学区である。近くには、渋井川や大江川、名蓋川が流れており、水田が広がっている。「穂波」「稲葉」と田園をイメージする地名が多いことから、かつて、この地域は水田に囲まれていたことが分かる。近年は、新興住宅地として変化し、今後も住宅が増える事が予想される。



② 災害特性

平成27年9月「関東・東北豪雨」では、台風第17号・18号の影響から、渋井川が決壊し、濁流が学区を襲った。また、令和元年10月には、台風19号により、渋井川と名蓋川が決壊、内水浸水で、ふたたび、学区は被災した。当時の雨量は、観測史上最大の3時間で降水量120ミリを記録した。更には、令和4年7月の「大雨」では、大江川が決壊し、48時間の総降水量が259.5ミリ、3時間の降水量は133.5ミリ、観測史上第1位を更新するなど、記録的な雨量であった。

平成27年から9年間で、3回の災害を経験している地域であるため、防災教育及び地域連携は、これから生活する上でも必要な地区であると考ええる。

(2) 地域連携に係わる現状

① 各官公署の協力

大崎広域消防本部や古川警察署、大崎市社会福祉協議会や自衛隊宮城地方協力本部等の諸機関と連携し、教育活動を行っている。

7月には、古川警察署他関係機関との協働で、地下道清掃と通学路清掃を行った。10月の総合防災体験学習では、社会福祉協議会、大崎広域消防本部、自衛隊と連携した。また、11月の火災想定避難訓練には、大崎広域消防本部の消防士より「火災時の避難」についての講話とアドバイスをいただいた。



② 南中学区防災連絡協議会

年に2回、南中学校区防災連絡協議会を開催し、大雨時の浸水箇所・危険箇所等の確認を行った。南中学校区防災連絡協議会は、各行政区長、民生・児童委員、大崎市防災安全課危機防災担当課長、稲葉児童センター館長、消防署職員、古川第三小学校長と防災担当、古川第五小学校長と防災担当、本校より校長、教頭、主幹教諭(2名)で構成されている。多くの方からの意見をもとに、学校の防災体制の取組も共有している。



II 取組状況

1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

(1) 学校防災マニュアルの見直しと避難訓練の評価

「南中学区防災連絡協議会」で学校防災マニュアルを配布し、行政区長と児童・民生委員の方にも意見をもらい見直しの参考とした。また、毎回15名ほどの行政区長や児童民生委員の協力を受け、各避難訓練の評価を行った。これまでは、職員の振り返りをもとに、次回や次年度の計画について見直していたが、地域の方の評価や忌憚らない感想、改善点、生徒の様子をお話いただき、より現実的な避難訓練となっている。



(2) 引き渡し訓練の実施(6月)

古川東中学校区と古川南中学校区(中学校2校・小学校4校)合同の引き渡し訓練を行った。今年度は、不審者が学区内に逃走していることを想定した訓練を行い、その後、引き渡し訓練を実施(児童生徒約3,500人、保護者2,500人、総勢約6,000人が参加)した。

不審者対応の避難訓練に備え、職員は、古川警察署担当者による研修を受け、生徒は、宮城教育大学講師の林田由那先生の講話を聞き、知識を深めた。

本校の引き渡し訓練への保護者参加率は、約85%であり、また、年々増えている傾向にあることから、保護者の理解と協力を感じる。

(3) 地域の方と生徒(安全委員会)との安全点検

生徒会の専門委員会の一つである「交通安全委員会」を今年度「安全委員会」と名称を変え、学校の安全にかかわる活動に取り組むことにした。専門委員会で教室の安全点検や避難訓練の振り返りの会や感想発表を行った。また、10月の運動会前に、地域の方と校庭の安全点検を行った。建築士や工務店で働いていた地域の方のアドバイスを、真剣に聞いていた。すぐに対応し、安全に運動会を開催することができた。



2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

(1) 総合防災体験学習(10月)

1年生:「自助」に関する学習「防災グッズ作り」・「防災ゲーム」

講師:大崎市社会福祉協議会

防災グッズ:ランタンとゴミ袋カップの製作、防災ビンゴ等

2年生:「共助」に関する学習「普通救命救急講習」

講師:大崎広域消防本部(消防士13名来校)

※「応急手当WEB講習」は保健体育で実施(2時間)

3年生:「公助」に関する学習「土嚢づくり」「南中クロスロード」

講師:自衛隊宮城地方協力本部

講師:わしん倶楽部代表 田中勢子さん



(2) 南中防災クロスロード(6月~9月)

「わしん倶楽部」代表の田中勢子さんにご指導いただいた。今年度は、「水害時の避難所ボランティア」をイメージして問題を考えた。問題を考える前に、阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震での避難所のエピソードや問題点等をグループで調べ情報を集めた。その後、問題を作ることで、当時の様子を思い出しながら、水害時避難所のイメージを明確に持つことができたと思う。



(3) 地域防災訓練への生徒の参加

地域の防災訓練に地区生徒会の生徒が参加した。避難してきた地域の方の名簿チェックをしたり、炊き出しを行ったり、防災ゲームの手伝いをしたりと積極的にかかわることができた。生徒は、「行ってよかった」、「地域の避難訓練や防災について知ることができた」と話していた。地域の方々も中学生の参加を喜んでいと報告を受けた。



(4) 南中学区防災訓練(11月)

今年度より、「南中学区防災連絡協議会」の行政区長と児童・民生委員による「南中防災訓練」を実施した。初年度ということで、参加できる部活動を募り、休日に開催した。

6月、9月、10月の避難訓練の評価後、参加メンバーと安全担当主幹教諭で話し合いを重ね、大崎市防災安全課や大崎市社会福祉協議会、カインズホームの協力を受け、実施計画と準備を行った。当日はアルファ米の試食、段ボールベット・テント組み立て、車椅子介助、発電機始動体験を地域の方から指導を受け行った。



3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

(1) 防災マニュアルの読み合わせ(4月)

第1回の職員会議で、防災マニュアルの読み合わせを行った。地震、火災、水害、特別教室からの避難経路や安全点検の要点等を確認した。また、防災マニュアルを基に、防災安全部会(防災主任、各学年の代表と主幹教諭、計5名)では、1年間の流れの確認や避難訓練、総合防災学習などの役割分担を行った。

(2) 防災安全部の取組(毎月1回・行事ごと)

本校の防災に係わる行事等は、防災安全部が計画を立てている。その計画を学年代表が、学年部会や学年毎朝の打ち合わせ等で説明したり、事前・事後学習を進めたりしている。

4 被災地訪問等を取り入れた生徒の防災意識を高める防災教育の実施

被災地訪問「防災学習」の実施

事前学習(4月) 講話:中川野乃香さん(大崎市在住 ペット危機管理士)

「被災地について」様々な被災地でボランティア活動をされてきた際の経験談等をお話いただいた。

1学年(5月)「閑上の記憶」を訪問した。クラスに分かれて、バスで被災した跡地や復興の様子を見学した。

2学年(5月)バスに語り部さんが乗車し、被災地を見学するツアーに参加した。その後、語り部さんとグループディスカッションを行った。

3学年(9月)石巻震災遺構の大川小学校では、語り部の佐藤敏郎さんから話を聞き、校舎を見学した。午後から、石ノ森漫画館で、職員から震災当時の話を聞き、館内を見学した。

各学年の被災地見学は、生徒の発達段階に合わせて見学地を検討し、学年毎実施している。また、被災地見学の事前学習として防災士や防災にかかわる方をお願いして、これから訪れる被災地についての話を聞くことで、より見学地での学習に意欲を持つことができたと考える。



Ⅲ 取組を通じた成果と課題

(1) 成果

- アンケートより、昨年の各学年の取り組みや新聞掲載を廊下に掲示したことで、より「防災」や「減災」に興味を持つ生徒が増えた。
- 「安全委員会」での活動を地域の方と一緒に取り組んだことで、地域と生徒の距離がなくなり、お互い気さくに声を掛けられる関係になった。
- 昨年度まで、年に2回来校の「南中学区防災連絡協議会」の行政区長さんや児童・民生委員さん方に、避難訓練の評価を依頼したことで、気軽に来校いただき、生徒とも笑顔で会話する姿が見られた。地域連携に繋がると期待できる。
- 地域の避難訓練に生徒が参加したことで、体験や経験は、生徒の意欲につながり、積極的に社会貢献する姿がみられた。
- 避難訓練や総合防災体験学習に地域の方々が参加していただくことで、古川南中学校の防災に対する教育内容を知ってもらうことができた。また、地域の方と生徒が繋がるきっかけになった。
- 地域の方々(区長さん、児童・民生委員さん)が積極的に学校に足を運ぶようになったことで、万が一の災害時、学校を避難所に利用する際のイメージを高めことにつながっている。

(2) 課題

- 今後、防災教育を地域と連携を進めるうえで、自主防災組織等の協力を得ることで、地域の人の輪が広がると考える。また、その方々との連絡手段が課題と思われる。
- 地域の人材発掘が難しかった。生徒に「地域の防災」を地域の方々に指導してもらいたい。